

## 高校野球の思い出

角館北校新制 2 期 藤井晃二

### 1 野球部の主力選手とチームの成績

(1) 昭和 22 年に、学制改革があり、新制高校生となった。戦後の高校野球は、この年から始まった。当時、わが野球部は藤村監督のもと、3 年生の村岡投手、石川 2 塁手、竹内遊撃手、齋藤(逸) 左翼手、野口中堅手、2 年生の沢田 1 塁手、1 年生の加賀捕手、高橋 3 塁手、齋藤(昭) 右翼手が主力で、ほかに 25 名ほどの部員がいた。マネジャーは 3 年生の佐藤(祐) 先輩であった。

この年には、県南、県内とも優勝し、東北大会に出場した。

(2) 23 年には、齋藤(宗)、田口(逸)、菊地、木元の各投手、加賀捕手、沢田 1 塁手、高橋(秀) 2 塁手、小野 3 塁手、齋藤(昭) 遊撃手、藤井左翼手、田口(友) 中堅手、長山右翼手が主力で、ほかに 20 名ほどの部員がいた。

この年は、県南と県内新人戦の優勝に止まり、夏の県大会は残念な成績に終わった。マネージャーは、3 年生の正木先輩でした。

(3) 24 年には、齋藤(宗)、田口(逸)、菊地、木元の各投手、加賀捕手、荒川 1 塁手、中村 2 塁手、小野 3 塁手、佐々木遊撃手、藤井左翼手、齋藤(昭) 中堅手、長山右翼手が主力で、ほかに 12 名ほどの部員がいた。

この年には、県南優勝と県内準優勝で終わった。なお、夏の県大会では、菊池投手が左翼手として出場した。マネージャーは、3 年生の石川君から菅原君に引き継がれた。

### 2 当時の恵まれた環境

(1) 学校では、学習とスポーツ両面に重点が置かれ、バランスが良かった。

(2) 優秀な選手達の熱意と絶え間ない努力、部員全員のチームワークと協力があった。

(3) 野球部を取り巻く多くの方々の応援とご支援が絶大であった。学校内はもちろん、町内の方々も、先輩、父兄の方々もご指導、ご協力してくださった。

特に、お亡くなりになられた佐藤順一先生とご一家の皆様には、いろいろな面で多大の御理解とご支援を頂戴いたし、心から感謝いたしております。本当にありがとうございました。

(4) 立教大学の角館合宿で、砂押監督、五井先輩をはじめ、選手の皆さんにコーチを受けたり、練習試合で学んだ事は貴重で大きな効果があり、私達の野球に飛躍的な向上をもたらした。

また、慶応大学の桜井、高塚(後に稲葉と改正) 監督のコーチも同様であった。大学選手との練習試合は、高校生の私達にとってとても有り難く、嬉しかった。

(5) 角中 OB の佐藤(恭)、加藤、八柳、大越、柴田、日辻、長山各先輩をはじめ、諸先生にもグラウンドの内外で、いろいろご指導いただき、またお世話になり、心から感謝しています。

(6) 早稲田大学 OB の鬼川さんにも、同様、大変ありがとうございました。

以上のような恵まれた環境で野球ができた事は、本当に人生の貴重な経験で、幸せであったと思っている。

### 3 あとがき (高校野球の延長)

(1) 24 年の部活終了後

齋藤(宗) 君と共に上京、後樂園で受けてプロ野球大映スターズの入団テストの合格通知があった時は、飛び上がるほど嬉しかったが、数人の方に相談し、考え、決断した結果、2 人で東北社会人野球の強豪「秋鉄」に入って、国鉄スワローズを目指そうということにした。

そこで、秋鉄の入社試験を受け、入部の運びとなった。

(2) 25年秋鉄に入社（卒業後3年間）

齋藤（宗）君は、主戦投手として県内優勝、東北大会出場、国鉄全国大会出場を経験し、プロ野球団広島、阪神、近鉄の選手となる夢を果たした。この間私は、齋藤（宗）君と野球部の練習以外にも、プロ野球を目指して2人で一所懸命練習を重ね、打撃、守備、走塁に、自分なりの自信を持つ事が出来たものの、チーム内でのレギュラーのポイントを確保できず、公式戦では、主としてピンチヒッター、他チーム地との練習試合では、投手や内外野に出場するといった状況であった。

3年目には、打率3割2分（チーム内第2位）で表彰されたが、21歳になって、この程度の実績では見切りをつけたほうが良いと考え、新設された中央鉄道教習所第1回専門部（後の鉄道学園大学課程、全寮制幹部研修）を受験、合格、退部、上京した。

(3) この頃、特に記憶に残っている私のプレーは、北高グランドでの立教大学との試合で、大沢選手のホームラン性レフトフライを、バックして、柵上に跳び上がって捕ったのと、本荘市公園での法大関根投手の外角低目のシュートボールをライト前にヒットエンドラン、1塁走者を3塁まで進めたのと、ライトフライを捕って、イチローのように、サードヘストライクボールを投げ、2塁ランナーをアウトにした快心のプレイで、今でも忘れられない。その時の感触は、今も手のひらに残っている。

(4) この私が、現在まで、良い青春時代のこのような思い出を持ち続け、今元気でペンを走らせているのも、ご指導、お世話を頂いた多くの方々や、一緒に野球に熱中して下さった皆さんのお蔭と心から厚く御礼申し上げます。

(5) この記録、記憶が不十分のため、拙文について、ご不満を感じられる方もいらっしゃると思いますが、どうぞあしからずご容赦ください。

最後に、ご逝去なされた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、皆様の御健康とご多幸を心から願って、ペンを置く事にいたします。



